

令和7年度 第3回 スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和8年1月29日(木) 13:25～15:15
場 所	酒田市役所3階 第二委員会室
参 集 者	委 員／中條 庸右、齋藤 隆、堀 俊一、齋藤 勉、三浦 修一、 小林 伸、大滝 美樹、伊藤 真実 欠 席／穂積 祥、佐藤 寿実子 酒田市／赤坂教育長、堀賀教育次長 スポーツ振興課：樋渡課長、中山課長補佐、高橋主査兼係長、 乙坂主査兼係長
配布資料	資 料 1 令和8年度スポーツ振興課当初予算要求の概要 資 料 2 令和7年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況 について 別添資料 酒田市スポーツ推進計画中間見直し最終案 中間見直し原案に寄せられたご意見への対応について 当日配布・回収 酒田市体育施設整備方針の中間見直しについて

1. 開会（事務局）

【会議の成立について報告】

- ・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数10名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。
- ・本日は傍聴者が1名いるので、よろしく願います。

2. あいさつ（教育長）

- ・昨年11月に開催された「東京2025デフリンピック」では、皆さんご承知の通り本市出身の3名の選手が出場し、輝かしい成績を収められた。齋藤心温選手はサッカー競技で銀メダル、齋藤京香選手は水泳競技の女子4×100mメドレーリレーで銅メダルを獲得。齋藤丞選手は陸上競技の男子1,500mと男子5,000mで決勝進出を果たした。この素晴らしい結果は、市民に元気にし、笑顔にしてくれたと思う。
- ・来月の2月28日には、3名の選手を招いて市スポーツ推進委員会主催の研修会が開催される。「スポーツを通して考える共生社会の実現」というテーマでパネルディスカッションを行うが、デフリンピックに出場した3名の選手がパネリストとして参加するので、委員の皆様からもぜひ、参加いただきたい。
- ・本日の審議会では、令和8年度スポーツ振興課当初予算の概要説明のほか、令和7年度におけるスポーツ推進計画の取組み状況について説明する。
- ・来年度、宝くじスポーツフェア「ドリームベースボール」を開催する。著名な元プロ野球選手からなるドリームチームとの親善試合や、少年少女ふれあい野球教室などを予定しているので、野球愛好者のみならず、多くの市民に会場いただきたい。
- ・後段では、酒田市スポーツ推進計画の中間見直し最終案及び、酒田市体育施設整備方針の中間見直し最終案について審議いただく。委員の皆様からは、それぞれの立場で忌憚のない意見を頂戴したい。

○事務局

酒田市体育施設整備方針の中間見直し最終案については、これからパブリックコメントになるので、非公開案件という形になる。変更した次第を本日公布している。

3. 協議（進行：会長）

【審議会の進め方について】（事務局説明）

はじめに（1）「令和8年度スポーツ振興課当初予算要求の概要」について説明させていただく。続いて、（2）「令和7年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況」について説明させていただく。続いて、（3）「酒田市スポーツ推進計画の中間見直し」について説明させていただく。最後に、（4）「酒田市体育施設整備方針の中間見直し」について説明させていただく。こちらは非公開案件となるので、傍聴されている方には退席していただく。ご意見、質疑等については、その都度お願いしたい。

（1）令和8年度スポーツ振興課当初予算要求の概要について **資料1**（事務局説明）

・資料最初の各基本目標の推進項目は、酒田市スポーツ推進計画中間見直し後の内容になっている。

【質疑応答】

○委員

体育施設整備事業について、次の資料とも関連するが、資料2-4の15ページに委託料で枯松伐採業務委託料とある。枯れた松を伐採の委託をするものかと思うが、スポーツ振興課の所管なのか。8年度は予算に入っていないのか。非常に松枯れは広がっていて、市としても大変大きな問題だと思う。8年度はどういう考えでいくのか。

⇒教育次長

市全体の考え方として、松くい虫の関係では国等の事業を活用する形で、農林水産部を中心に動いている。また、道路（市道）上のものや陸上競技場の辺りは整備課が所管になるが、今回お尋ねのあったスポーツ施設や小学校施設など各所管で持っている施設については、各所管の予算でやる形で市は取り組んでいる。市の中で大きな柱はあるが、所管の施設については所管課で対応するという考えである。

⇒事務局

例えば、光ヶ丘だと公園という位置付けがあるため、全体としては整備課が所管となる。ただ、光ヶ丘公園の中に体育施設もある。エリアが決まっているので、そのエリア内にある松についてはスポーツ振興課の所管という形になる。

○委員

小学校でも教育委員会にお願いをしているが、なかなか予算が回ってこない状況。先日、松の木の枝が風で倒れてしまったことがあったが、校務員が処理できる範囲だったので良かった。ただ、枯れている松がいっぱいある。

○委員

体育施設にあるトイレの洋式化について、これは非常に大切なことだと思う。洋式化について考え方などあるのか。併せて学校の方もどう進んでいるのか。こことは直接関係ないが、私も避難した際に小学校へ行ったら、完璧には洋式化されてなかった。年配の方々はいっぱい

ブツブツ言っていた。学校関係の洋式化はまた別だと思うが、体育施設においても、やはりこれからは、洋式化は非常に大切なことだと思うがいかがか。

⇒事務局

条例上 30 いくつかの体育施設がある。水洗で洋式になっているものは、すべてではないが各 1 個程度は実際ある。トイレの洋式化事業という事業化にはしていない。スポーツ振興課としては施設管理事業と施設整備事業の修繕料の中で、少しずつだが洋式化に向かっていきたいと考えている。ただ、1 つ洋式化にするにしても、数 10 万円かかるのが実態で一気に進めることはできない。例えば、国体記念テニスコートの女子トイレが 1 つも洋式化になってない。関係者から要望は上がってきているが、担当課として優先順位を決めながら進めていきたいと考えている。

○委員

30 代女性の運動する時間が少ないということアンケート資料で見させてもらった。小さい子からお年寄りまで使えるトイレとして、多目的トイレや赤ちゃんも一緒に入れるトイレを考えていただけると、もしかしたら、小さい子がいるから行けないじゃなく、小さい子がいても対応できるトイレが増えると、スポーツにもう少し関心を持つのかと思う。そういったこともこれから考えていただけたらと思う。

⇒事務局

多目的トイレはすべての施設に設置されている。ただ、男女別になると設置はされていないところもある。男女別のものについては、計画的に進めていければと考えている。

○委員

施設を利用したときに授乳の部屋があるか聞かれたりするのだが、そういった施設はあるのか。

⇒事務局

現状ではない。屋内の体育館等だと作りやすいと思うが、特に屋外施設に作るとなると難しいと思う。

○委員

女性に優しいと謳っている以上は、何かしらそういう施設があった方が良いと思った次第である。

⇒事務局

あとは利用者数等も加味して、今後、施設の集約化や統合に向けて進んでいくと思う。体育施設に限らず、すべての公共施設でそういった方向に進んでいくと思う。その中でも利用者数が多い施設については、そういったところも検討していかなければならないと考えている。

もう 1 点、先ほどの松枯れの件だが、令和 8 年度については、ほとんど整備課で予算付けとなっている。

○委員

運動能力測定会について、ここ近年続けてもらっていて本当にありがたい。測定会に来る

子ども達も毎年期待して、自分の能力を向上させたいと思っているだろうし、これからもぜひ継続して開催してもらいたい。

スポーツ少年団本部としても、昨年度年は4種目、今年度は全部で6種目の競技を子ども達に体験させることができた。特に剣道専門部のブースで、普段竹刀を持つことのない子ども達が、竹刀を持って剣道体験をしていたことが印象的だった。色々なスポーツに触れる機会とか、体験できる機会をこれからも継続していきたいと思うので、ぜひ運動能力測定会については継続開催をお願いしたい。

また、来年度開催予定のドリームベースボール事業が有効なものになるように、市民の皆さんに宣伝しながら、スポーツの振興に繋げていきたいと思っている。

○委員

予算要求の概要について、事業ごとの金額があると規模とか分かって良いと思うが、あえて金額を載せていないということか。

⇒事務局

例年であれば、内示ベースの予算金額を載せたものを当日に配布し、終わったら回収する対応をして示していた。ただ、今回より議決もされていない、未確定の予算金額を載せて会議資料として配布するのはどうなのかということになり、金額を掲載しない形にした。来年度第1回目の審議会では、確定した予算金額等々をお示しできればと思っている。

⇒事務局

この審議会は年3回あるので、来年度第1回目の際に予算規模を皆さんにお示しする。ほとんどの事業で今年度の金額ベースと変わっていないので、ご承知おきいただければありがたい。

先ほど委員から話があったドリームベースボールの事業については、総務省の事業で1,700万円程度の事業費規模である。本市では、本当に少ない金額で済むし、市よりも、スポ少本部からの協力が大きいこともあり、スポ少本部の設立60周年という冠を事業につけたかったが、制約がありそれが叶わなかった。ただ、野球という競技に特化しながら、スポ少本部からの多大な協力をいただいているわけなので、今後、しっかりと準備をして進めていきたいと思っている。

○委員

今、市内の小学校でパルクール体験が実施されていると聞くが、それらへの補助とか何かあるのか。

○委員

昨年度に教育委員会から、「パルクール体験をやらないか。」という案内が来て、市内では2校ぐらいの学校で実施しているようである。本校でも3学期にやらないかという話があったが、今からでは難しいと判断した。来年度に向けても実施する学校がないか案内があり、新堀小が手を挙げていて、統合もあるので一緒やらないかと誘われている。本校でも交流をしながらやりたいと考えている。

⇒事務局

キマイラ（パルクール体験会の主催団体）のボランティア活動というか、最初は無償で行うので、ぜひ小学校でやらせてほしいという声掛けをしているようである。費用に関しては、

2年目からは、相談に応じてという話を会の代表者からは聞いていた。

○委員

パークール体験の事務局からも直接交渉というか、今後やらないかという電話も来ている。

○委員

2月22日にスポ少事業の酒田市・遊佐町交流大会でパークール体験を市武道館で計画している。

(2)「令和7年度におけるスポーツ推進計画の主な取組み状況」

<基本目標Ⅰ>誰もが楽しめる生涯スポーツの推進 **資料2-1** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

スポーツ能力測定会について、当選者数220名に対し、当日の参加者数が175名。45名が欠席したことに関して、子ども達も風邪など引くだろうが、このぐらいの欠席者数は想定内か。去年もこのぐらいの欠席者数だったか。

⇒事務局

事前申し込みが280名に近いということで、当然全員参加できればいいのだが、定員を200名程度としていたので220名で絞り込んだ。当日にこれだけ休むことは想定してないので来年も同様の形にはなるが、その辺は委託業者と考えを共有しながら進めていきたいと思う。過去では申込者数が定員の200名にまで達しないときもあった。今回で4回目、来年で5回目になるが、参加者の約8割近くが初めて参加する子ども達なので、そういったところも踏まえて、当選者数など検討していきたい。

○委員

私も少し見学させていただいたが、行っても行かなくてもいいような感覚なのか、欠席者が多いのが少し気になった。

⇒事務局

インフルエンザが流行り、学校が休校になったりした時期でもあった。欠席の連絡をいただいた方もいた。

○委員

申し込みが280名あって220名に絞って、45名が欠席というのは非常にもったいない話だと思う。妥当かどうかではなく、時期も時期なので当日欠席は仕方ないと思う。

○委員

小学校が絡んでいる鬼ごっこによる体力向上事業についての御礼である。大学生を派遣していただき、子ども達もとても真剣になって、お兄さんお姉さん、特に私の黒森小では去年と同じ学生が来てくれて、子ども達も覚えていて、また大学生も覚えてくださっていて、すぐ仲良くなった。小さい学校だとやはりそういう人づくりとか人間関係づくりにも大変役に立つ、ありがたい事業である。

初めの10分から15分は鬼ごっこをするが、そのあとは体育の授業を行い、先生の補助

として大学生が見本を見せてくれたり、一緒に跳んで喜んでくれたりとか、補助をしてくれたりとか、そういう面でも大変ありがたいと思っている。今後ともよろしくお願ひしたい。

○委員

大学との連携事業は、とても良いと思っている。今度、公立化にもなるし、やはり公益大学と小中学校と一緒に連携できれば良いなと今日の資料を見て、スポーツ振興課が中に入ってやってくれていてありがたいと思った。

質問として、学生に対して謝礼や謝金を払っているのか。

⇒事務局

謝金と交通費を支払っている。

<基本目標Ⅱ>感動と活力に満ちた競技スポーツの推進 **資料2-2** (事務局説明)

【質疑応答】 特になし

<基本目標Ⅲ>スポーツによる賑わいとまちづくりの推進 **資料2-3** (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

街中の中心部に集まってできるような競技があると非常に良いのではないかと思う。例えば、つや姫ハーフマラソン大会も街中を走っているわけだが、街の中心部で行われるものがあると商店街等の活性化にも繋がるのではないかと思う。

<基本目標Ⅳ>安全安心なスポーツ環境の整備 **資料2-4** (事務局説明)

【質疑応答】 特になし

⇒事務局

補足だが、ネーミングライツの話について、資料には今年度4つの施設で3社とネーミングライツの契約をしている。令和6年度から5社の8施設にネーミングライツをいただいでいて、現在、光ヶ丘テニスコート、国体記念テニスコート、光ヶ丘野球場の3施設で募集をして、光ヶ丘野球場だけネーミングライツをいただくことになった。これから契約に進むが、まだテニスコートが2つあるので周知をお願ひしたい。

また、ネーミングライツに加えて公共施設の広告事業として、現在、体育施設においてはINPEX 酒田アリーナの1階の階段の箇所と、テニスコートのフェンス、野球場の外野フェンス、ここに広告事業として市広報2月号で募集をかける予定であるので、周知方よろしくお願ひしたい。金額は、INPEX 酒田アリーナで1か月3,300円の年間3万9,600円。屋外施設の野球場とテニスコートは、1か月5,500円の年間6万6,000円である。

<全体を通して>

○委員

ニュースポーツというと、最近はここに記載あるボッチャとモルックという感じがする。だいぶ前だとゲートボール、グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ等々あったと思うが、最近はこの2種目しか出てこない。今も色々な種目をやっているのか。今、ニュースポーツだとどんな種目があるのか。

○委員

以前はカローリング、フロアカーリング、エアバレーなど市スポーツ推進委員会でも色々

な種目を行った。我々スポーツ推進委員も各種目のルールを覚えるのが大変だったこともあり、まずはある程度、地域へ浸透するまで同じ種目 2 種目ぐらいをやっつけようと思った。モルックとボッチャはいつでもどこでもできる種目である。フロアカーリングなどは体育館でないとできない。空きスペースでできる種目を広めようということで、市スポーツ推進委員会では、今この 2 種目に力を入れて取り組んでいる。

○委員

運動量としては少ない感じがする。年配の方でも、もっと運動量があって良いのかと思う。

○委員

運動量は少ないかもしれないが、小さい子どもからお年寄りまで幅広くできる種目である。

⇒事務局

スポーツ推進委員は基本的に各地区 3 人ほど委嘱されている。推進委員は、全国大会や東北大会等で色々な種目の研修を受けている。研修で学んできた良いところを地域のスポーツ振興会と一緒に取り組むことを目的に、そういった研修会に参加している。

市体育館は閉館しているが、そこにはかなりの数のニュースポーツの道具がある。ただ、30 年から 40 年前の道具なのでなかなか使えない状態のものもある。それらを新たに更新するのも大変である。

運動量としては少ないかもしれないが、そういったところから、やはり取り組みやすい、運動を始めるひとつのきっかけづくりとして、スポーツ推進委員会ではモルックとボッチャの普及に取り組んでいる。競技というよりは、まず、スポーツをする入り口の部分の対応を、スポーツ振興会とスポーツ推進委員会でやっている。例えばバレーボールのニュースポーツバージョンと言えば、エアバレーやソフトバレーとか、ボールを変えて取り組みやすいことをしている。どこをねらいとしているのか。スポーツ推進委員会、スポーツ振興会はあくまでも運動・スポーツを始める入り口の部分ということで、ご承知おきいただければありがたい。

(3) 酒田市スポーツ推進計画の中間見直しについて 別添資料 (事務局説明)

【質疑応答】

○委員

策定されたものは、今後どのように利用されるのか。興味のある人が自分でホームページを見たとしても、なかなか自分で印刷まではしないと。製本されたものが、例えば学校とか、公共機関に配布されるのか教えていただきたい。

⇒事務局

今、議会でもタブレットで対応しており、基本的にはデータでの提供となる。最終データをホームページにアップする。

○委員

できれば、製本されたものが各学校に 1 冊ぐらいあった方が良いのかと思った。

⇒事務局

申し訳ないが、各自で印刷をお願いしたい。

○委員

多分、計画が策定されていることを知らないという人もいるかと思う。

⇒事務局

計画の見直しについては、市広報や色々な媒体に出して周知している中で、知らないというのは、個人の問題として捉えるしかない。

○委員

表紙に「令和3年8月変更」とあるが、「変更」と今回の「一部改訂」はどこが違うのか。

⇒事務局

令和3年のときは、子どものスポーツ実施率の算出にかかるデータについて学校教育課で扱っているものを活用することにしたため、目標値を変更した。言葉の言い回しとして、今回は全改訂ではなく一部を改訂したということで「一部改訂」と表現させていただいた。

○委員

「一部改訂」は理解できるが、「変更」というのは、全国的にもその時期には「変更」という言葉を使っていたということか。

⇒事務局

酒田市のデータの取り方について、当初、スポーツ推進計画を策定した段階から変えたことから、「変更」という言葉にした。ただ、今回の見直しでは令和3年のときの「変更」と表記したものを変えるわけにはいかないもので、そのままにさせていただくものである。

○委員

「知る」について事務局から意味などの説明があった。この「知る」は、スポーツで言えばルールだったり、競技だったり、色々なことを「知る」ことに繋がる。「する」「みる」「ささえる」「知る」と繋げるより、「ささえる」と「知る」の間に「そして」とか入れてみてはどうか。この「知る」の意味をもう少し強調できるのではないか。

⇒事務局

事務局での考えというより、委員の皆さんから意見をいただければありがたい。計画自体まだ最終形ではなく、本日の審議会で委員の皆さんからいただいた意見を反映する予定なので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いしたい。

○委員

「知る」ってすごく概念が難しい。「する」前に「知る」なのか、順番が付けにくい場面がある。

⇒事務局

前回の審議会で「知る」という言葉を頂戴した中で、来年度の予算要求をする場合に、この「知る」は色々なところに繋がってくると感じた。例えば、障害者スポーツが市民にもなかなか伝わらないことが、今回のデフリンピックが開催されたことで障害者スポーツが市民にも浸透した。これは「やる」「やらない」ではなく、デフリンピックという「知る」機

会があったからだと思う。「する」「みる」「ささえる」の後に「知る」が来るのではなくて最初に「知る」があって、それから「みる」こともあり得るが、「知る」という言葉は結構大きいものだと思う。「知る」というのは、今回の運動能力測定会でもそうだし、自分の体力だとか、自分に合ったスポーツを知ることができるだとか、今までやったことのないニュースポーツがあったとか、それも「知る」だと思う。色々な部分で「知る」というのは、繋がってくると思う。

○委員

見る人で変わるというか、個人ごと感じ方が違うと思うので、私はこのままで良いと思う。「知る」が先とか順番は関係なく、個人の感覚で良いので、このままで良い。

○委員

教育長の挨拶文の中で、この「知る」の部分は大きな意味があると書いてもらえれば良い。

○委員

中間見直し案のところ、12ページと13ページのところに中学校部活動のことを入れていただきありがたいと思う。中学校部活動の地域移行から展開になり、関係する皆様、スポーツ協会であるとか、市教育委員会など色々なところから、ご指導ご支援ご協力いただきながら進めているところである。現在、令和8年度からはほぼ土日の部活動は地域のクラブに移行できて、教員がそこに参加しなくても運営できるような形になってきている。生徒の社会体育的なスポーツ環境については、子どもの数の減少とか、部活動や1クラブでは活動ができなくなるから再編していくとか、新たな動きがまた出てくると思う。それは、学校体育的なところから、社会体育的なところにだんだんシフトしていくのではないかと思う。今後、協議を進めていくことを書いていただいて、大変ありがたいと思う。

○委員

同じ13ページのところに、「もっと遊べ酒田の子ども」の文言が載っていたが、また始まるのか。

⇒事務局

また事業が始まるという意味ではない。

(4) 酒田市体育施設整備方針の中間見直しについて **別添資料** (事務局説明)

※酒田市体育施設整備方針については、公開することで審議を妨げる恐れがあることから、資料及び議事内容を非公開とする。(傍聴者は退席。)

4. その他(委員より情報提供)

○市スポーツ少年団本部指導者講習会の案内

期日/2月22日 場所/ル・ポットフー 講師/さとこ女性クリニック 院長 井上聡子

○市スポーツ協会指導者養成講習会の案内

期日/2月21日 場所/公益研修センター 講師/齋藤心温選手

5. 閉会(事務局)

以上